



広報えびな

編集・発行

海老名市役所 広報広聴課

〒243-0492

神奈川県海老名市勝瀬175番地の1

☎ (046) 231・2111

URL <http://www.city.ebina.kanagawa.jp>

*この広報は再生紙を使用しています。

「学校のはじまり、はじまり」

10/30 ~ 11/25

温故館特別展を開催

問 温 故 館
☎233・4028

みなさんにとって学校の思い出にはどんなものがありますか。優しくった先生、楽しかった友人との遠足、クラブ活動や給食の時間など…さまざまな思い出があることでしょう。温故館では「学校のはじまり、はじまり」と題して、10月30日(火)～11月25日(日)まで特別展を開催します。昔の学校を知り、自分の学校生活を振り返ってみませんか。そして、21世紀の新たな学校の将来について考えてみてください。

「学制」公布で6校開設

来年度から学校は週5日制になり、学習内容も変わります。こうした学校に対する関心が高まっている現在、今回の特別展では明治時代の学校にスポットをあて、海老名における学校の始まりとその歩みを紹介します。

「国分学校」、「博敏学校」、「本郷学校」などは、明治の初め海老名市域にあった学校です。1873(明治6)年、明治政府は「学制」の公布を行い、全国に学校を設置し、海老名でも6

校が開設されました。そして6歳以上の男女の就学を呼びかけました。しかし、明治前期は行政区画や教育制度が目まぐるしく変化し、海老名市域の学校も複雑な変遷をたどりまし

同展では、海老名の学校の移り変わりを、貴重な文書や日誌、使用された教科書などを展示するとともに、これらの文獻を通して当時の様子を紹介します。

◎建設資金は村民から

学校を作るにあたっては、その建設のためのお金は、すべて村民の負担でまかなわれました。そのため、どのようにしてお金を集めるか、人々は大いに悩み、苦労したようです。

す。

◎季節で異なる始業時間

明治中期の学校生活の様子について、日誌をもとに紹介しま

す。

啓蒙学校後の尋常啓蒙小学校(1886(明治19)年、河原口村(現河原口)にあった海老名小学校から独立し、中新田村(現中新田)に誕生した学校です。

当時は、今と同じように運動会や遠足が行われていました。一方で、季節によって始業

明治時代の問題にチャレンジ

今回の特別展では、当時の学校の試験問題も展示します。今のテストよりずいぶんむずかしいものです。

【漢字の読み】

① 圍繞 ② 疆 ③ 沃野

いかがですか？これは、下等小学第4級今の小学校3年生前半の問題です。会場には他にも多くの問題を用意しています。ぜひチャレンジしてください。



尋常今泉小学校

時間が違っていたり、先生が病気で休むと学校も休校になったりというように、今の学校生活と異なるところがだいぶありました。

◎尋常高等海老名小学校と尋常高等有馬小学校の時代

明治40年代に入ると、義務教育は6年になり、ほとんどの子どもたちが学校に通うようになりました。このころ、海老名村では、尋常今泉小学校(上写真)と故萩原静夫氏が当時を思い出して描画したもの、尋常海老名小学校、尋常啓蒙小学校、尋常高等大田小学校の4校が合併し、現在の海老名小学校の地に尋常高等海老名小学校が誕生します。一方、有馬村では、1892(明治25)年に設立された尋常高等有馬小学校も新校舎が完成します。写真などで当時の子どもや先生、校舎の様子を紹介します。



明治40年代の児童たち



市の歴史資料200点を常設展示

温 故 館

文化遺産の村役場を使用

温故館は、考古資料や民俗資料を市民の共有財産として保管し、広く市民のみなさんに公開するためにつくられた郷土資料館です。

建物は、大正7年から約50年間、役場庁舎として使用されていた典型的な郡役所建築です。

1階には100分の1に復元された相模国分寺の模型を配置し、先土器時代から中世まで市内で出土した石器・土器など考古・歴史資料を約200点展示しています。

2階は、民俗資料として、スキ、クワなどの農具や生活用具、古民具等を展示し、農家の昔の座敷を再現しているコーナーもあります。

◎建物も貴重な文化財

温故館は1921(大正10)年の相模国分寺跡が国指定史跡となった年に、国分寺跡保存整備事業の一環として考古学資料などを保管・展示するために尋常高等海老名小学校(現在の海老名小学校)の校庭に設置されたのが始まりです。

「温故館」は時代を経て数

